

統合医療施設

統合医療の水先案内人として 利用者の自己実現をサポートする

小池統合医療クリニック(東京都新宿区)



東京、四谷に統合医療クリニックを開き、真の統合医療を求めて全国からやってくる方々を迎えている小池弘人先生は、次のように話す。

「統合医療というと、最近は‘がんの統合医療’というイメージが強く、なかには、医療施設で免疫療法やサプリメントを使っていれば統合医療、と考えられている場合もあります。本来は、現代医療と代替医療をどう融合させられるかを真正面から考える医療として始まったのが統合医療でした。そして、病気を診断されている人も、そうではない人も、自分の身体に関心を持ち、その知識を深め、それぞれの健康観を確立し、実践力を養っていこうとする市民運動が自然にともなうものです。」

クリニックのホームページからリンクしている小池先生のブログによると、先生はアンドリュー・ワイル医学博士が部長を務めるアメリカのアリゾナ大学統合医療プログラムを2004年に修了（2年間に及ぶアソシエイト・フェローという課程）しており、欧米で認知されている統合医療を総合的に学んだ。また、学生時代から東洋医学に親しんできた経験があり、すべてが小池先生の今につながっている。

「医学生るとき、鍼灸師の知人が中国医学の勉強会に誘ってくれたのがきっかけで漢方や針治療を学び、将来は内科で開業し、漢方も一緒に活用できたらと考えていました。その後、患者さんから健康食品について相談されることが多くなり、同時に代替医療、補完医療、統合医療といった考え方が世の中に出てきました。そこで、統合医療の全体的なイメージをつかみたいと思い、アリゾナ大学のプログラムに参加することにしたのです。」

●来院者とのコミュニケーションで納得してもらえる治療法を選択

現在は、漢方や鍼灸のほか、欧米での歴史が長いホメオパシー、その他サイモントン療法（免疫機能を高めるイメージ療法のひとつ。クリニックでは専門の訓練を受けた療法家と提携している）などの選択肢を用意しているが、何よりも一番重きを置くのは、初診時を含め、来院者と十分なコミュニケーションを持つことである。なぜなら、医師の立場からその人に一番良いと思う選択肢と、ご本人が求めるものが一致しない場合があるからだ。

統合医療はあくまでも患者が主役で、医師はその自己実現のためのガイドとサポートを行う。したがって、利用者が自分で自分の統合医療を組み立てて行けるよう、さりげなく患者教育の要素も含ませながら、治療の実践を力強く支えていこうという考えがあるのだ。実際、他の病院で受けた検査結果の意味がわからず、その説明だけを求めて小池先生のクリニックを訪れる患者も少なくない。

「本来であれば検査を行った医師が受診者にわかりやすく説明すべきでしょうが、現状の保険診療では難しいかもしれません。ですから、私のように自由診療で十分な時間を提供できる医師がサポートする必要があると考えています」と小池先生は話す。統合医療のなかでは、治療以外にも医師にできることが数多くある。時には、「それほど深刻な病気ではありませんが、統合医療を行えますか？」という問い合わせもあるという。

「なんとなく調子が悪い」が病気としては診断されない「未病」は、中国伝統医学にお

いては大きな病気に発展する前に治療すべきとの考えがあることから、小池先生はちょっとした不調を感じる来院者にも積極的に対応している。最近では、未病に対するセルフケアを啓発する目的から、『未病ヨーガ』を共著で出版している（成瀬雅春、小池弘人共著、中央アート出版社、1,200円＋税）。

このように患者を中心に考えた地道で綿密な診療活動は、西洋医学中心の医学教育を受けた医師には、なかなか実践することができない。そこで、小池先生は出身校の群馬大学で教官を務めていたこともあり、5年前に統合医療の授業を創設した。現在は、非常勤講師として統合医療の授業（半年間に全8回の授業）を受け持ち、後進の指導にも当たっている。

■小池統合医療クリニック

〒160-0004 東京都新宿区四谷2-8 新一ビル602

TEL : 03-3357-0105

FAX : 03-3357-0129

<http://www.koikeclinic.com>